

## 楽しい“free or fluid” Rugby

摂氏 30 度を越える炎天下「激突」ラグビーが行われていた。

芝生ならばいざ知らず、汗まみれで土のグラウンドに横たわれれば泥まみれになる。

細切れで right, bright, interesting RUGBY とはほど遠く、すばしこく動いてはいるがスピーディなゲームとは言えない。それでも選手達は一生懸命大きい声を出して戦っている。

若者の真剣さに感心する一方で、一般人の視線を考えて、ラグビー人口の増加を願うのは無理だと痛感しました。つまり、

right:正しい、即ちルールを守ってフェアに

bright:賢明、即ち賢いだけでなく明るく

interesting:興味深い、即ち工夫と変化あふれる面白いラグビー

との落差の大きさに落胆しました。

Let's read and enjoy Laws. ラグビーは楽しい競技で、暑さをも吹き飛ばしてくれます。ルールはそのように作られているのですから、固定概念を捨てて、ルールの意図が達成されるようにプレーすれば、プレーヤーにとっても、応援者にとってももっと面白くなることは確かです。

ルールの守り方に 3 段階あります。一本の串に繋がった 3 つのダンゴと考えましょう。

1. ルールの意志をプレーに活かして、目指すものを追求する
2. 条文に書かれてある通りプレーする
3. ルールが改正される都度、そのことば(尻)だけをとらえてプレーする

少し前の喩えですが、3つ一組の仲のよいダンゴ3兄弟です。美味しく有効に、片寄らないように、消化不良にならないように食べて身につけてください。

ラグビーは running handing game です。そのために非常に重要な、15 条の 5「タックルされたプレーヤー」に関わるルールを噛み砕くことから始めましょう。

その前に、Ruck and Maul should be viewed as failures, … という問題がありますが、ここでは割愛し、ルールと現状を対比してすすめましょう。

15 条 5-a .

タックルされたプレーヤーはプレー継続のため、直ちにボールをプレーできるようにしなければならない

まずプレーヤーはそんなことを考えていません。「味方が不利にならないように」全力を尽くすのです。殆どの場合相手に背を向けてゴールラインに並行に横たわり、背を屈め腕でボールを被うようにすることが、一番確実と考えている。ルールブックを読んでいないし、そのように教えられているのだから当然なことです。

15 条 5-b.

タックルされたプレーヤーは直ちにボールをパスするか、ボールを手離さなければならない。さらにそのプレーヤーは直ちに立ち上がるか、ボールから離れなければならない。

すぐ後ろに味方がサポートしているのに、ボールを持ったまま地上に横たわってしまうことが多い。ラックから継続したとしてもワンクッションの後になります。

味方に気が付かなかったのか尋ねてみると、殆どの場合、パスすることを考えて居なかったという答えに驚かされます。ルールブックを読んでいないし、パスするように教えられていないし、練習していないから当然なことです。

手離さないと反則をとられるからボールを離したといっても、抱え込むような状態ですら相手 FW を押し下げないと継続困難です。そこで、ボールの上に選手が重なっていくこととなります。

直ちに立ち上がるうとしても上から乗ってきます（反則）から立ち上がれませんし、ボールからロールアウェイして離れることもできません。適当に相手の邪魔になるように寝ておれと教えられ、プレーも暫しの休息とったりする。これでは良くなる道理がありません。

15条5-c.

タックルされたプレーヤーはボールをいずれかの方向に置くことによってボールを手離すことができる。ただし動作はただちにおこなわなければならない。

「ボールを置くことによってボールを手離すことができる」と言うのは意味が通じません。タックルされた瞬間のボールの持ち様はいろいろです。タックルされたらただボールを手から離すだけでなく、出来れば地上に置くようにしなさいというのです。そうすれば横たわった身体から腕の長さ分 20~30cm 離れたところに置かれることになり、プレーの継続が容易になり、スピーディになります。いずれかの方向に置くということは、タックルされたプレーヤーの相手側（状況によってはその方が有利）もあるということです。双方のサポートの状況によって、相手側に置いたり、頭の先に手を伸ばして置いた方が有利・有効な場合が多いのに殆どみられません。有効なサポートが少ないのと、そんな置き方を考えていなかったというのが理由です。サポートがないから置かない、置かないからよいサポートが生まれれないという悪循環をおこしています（走らない、走れないプレーヤーに育ってしまう）

15条5-d.

タックルされたプレーヤーは地面上でいずれかの方向にボールを押し進めること（前方にはなく）によってボールを手放すことができる。ただし動作は直ちに行わなければならない。

「ボールを押しすすめることによってボールを手離すことができる」というのは意味が通じません。地上に置く時にボールを押し動かしてもよいというのです。これは寝ながらプレーすることになりラグビーの基本理念に反することですが、敢えてそうすることによって、プレーの継続を促進しようとするものです。横たわっている身体から 20~30cm 或いはそれ以上の間隔が確保されることによって、プレーの継続が容易になることを意図するものです。

あまり長くなりますので、ここで一旦区切ります。

ルールを「守る」ということを真剣に考えてください。プレーヤーが勝つことだけを考えるのは当然としても、それはルールを守るということを前提としているのは言うまでもありません。ルールは守った方が有利にできています。ルールの意志を生かすように守っていないということの反省と改善が必要です。

ルールブックは確かに少々堅苦しく、具体的に内容が理解しにくいところが全く無いということはありませんが、3つの段階を踏まれば身近なものになります。指導者は何でも勝てばよいというのでなく、美学を持ち目標を見失ってはならないというべきでしょう。レフリングに問題が無いとはいえませんが、まずプレーを変えることです。そうでなければグラウンドに落とす「汗」が無駄になる。そのことを選手も指導者も忘れるべきではありません。

西川 義行